

絶対反対を貫いた館山支部の闘い

●敵の攻撃

動労千葉の拠点職場をつぶす

06年7月に館山運転区・木更津支区の廃止が提案された。2つの職場をつぶして木更津に新しい運輸区を新設することだった。これは動労千葉の組織破壊攻撃。なぜなら動労千葉の組合員が職場の過半数を握る支部だったからだ。敵の目的は組合員をバラバラに配転して動労千葉をつぶすことがはっきりしていた。



職場を奪うことが最大の団結破壊攻撃

地方切りすて～儲からない線路はいらない～

館山運転区廃止は内線の切捨て攻撃でもあった。館山周辺地域は観光が最大の産業なので電車が走らなくなるといことは、地域の死活問題であった。

◎敵の攻撃に対して

組合員をバラバラにして動労千葉をつぶすことははっきりしているんだから・・・

団結を守りぬくためには

基地廃止絶対反対を貫くしか道はない

⇒団結が総括軸

But・・・

新運輸区の新庁舎はどんどんできていく

組合員も廃止は止まらないと思っている

→「基地廃止絶対反対」という気持ちで本当に一致することが現場にとって一番難しい

それでもなぜ最後まで絶対反対を貫けるの？

絶対反対以外に団結を守りぬく道はないから (p45上)

⇒団結が総括軸

もし条件闘争にしたら・・・

俺はどこに行きたい、どこは嫌だと足の引っ張り合いや腹の探り合いになる

⇒組合員の心がバラバラになる⇒敵の思うツボ